アセアン防災情報標準化検討に向けた取組

アジア地域においては、「ASEAN（東南アジア諸国連合）」という広い地域連携の枠組みがあり、また防災分野については、「AHA Centre（ASEAN 人道支援・防災調整センタ）」という地域全体の災害復旧支援や人道支援を担う組織も既にあります。ここに、「発災前」の災害アラート情報伝達（特に「ラストワンマイルデリバリー」）という領域を加えることで、より網羅的なものにしたいという思いから、アセアン事務局 ICT 基金のプロジェクトとして、提唱国ラオスでのワークショップ開催という形で実施しました。

プロジェクトのテーマは、アセアン 10 ケ国の防災に関わるデータ交換や、システムならびにフォーマット等の標準化を検討するというもので、まずはアセアン 10 ケ国における防災・減災の取組みや課題、システム、フォーマット等に関する現況調査に始まり、その分析結果を踏まえて、標準化検討に向けたワークショップを実施しました。また、プログラムの中では AHA Centre の既存の取組みとの協業や補完の可能性も検討しました。

カンボジア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムの 7 ケ国より約 50 名の ICT 政策、デジタル化推進、防災行政等に携わる行政官が参加し、活発な意見交換がなされました。2 日間のプログラムは、事前現況調査の結果分析を JTEC から紹介したのに続き、AHA Centre の防災関連データのデジタル化の取組み、JTEC より公共放送波を活用した早期警報や世界標準に準拠したフォーマットでのアラート伝達などのソリューションが提言され、アセアン地域でのデータ標準化に向けた災害管理のフレームワークやガイドラインが議論されました。

標準化に向けた今後の進め方として、最初から「完全標準化」を目指すのは現実的ではなく、まずは「部分標準化」、中でもとっかかりやすいと思われる「フォーマット」の標準化検討が提言されました。また、これからインフラ設備の敷設が必要な国にとっては、設備投資をそれほど伴わない「公共放送波の活用」が検討に値するソリューションであることも確認されました。さらに、「メコン川流域」など、自然災害の課題が共通する国でサブグループを組成し、スモールスタートを切るのは現実解であることに関して、賛意が得られました。

発災時には平常時以上に情報連携が欠かせません。各国区々のシステムやフォーマットの共通化は有効なデータ連携ツールとなり得ると考えられ、このようなアセアン各国が一同に会する機会を JTEC としては今後も支援していきたいと考えています。

ワークショップ風景
（2023 年 8 月）

ワークショップ主要メンバーによる集合写真
（2023 年 8 月）